

2020年3月19日

在学生各位

国際医療福祉大学
学長 大友 邦

春休み期間中の海外渡航について（注意喚起）

新型コロナウイルス感染症については、各国・地域において感染者数が増加し、世界保健機関（WHO）において「制御可能な世界的大流行（パンデミック）」を宣言するなど、日々状況が変化しています。そして3月18日、日本政府は全世界に対して感染症危険情報レベル1（十分注意してください）を発出し、国民に海外への渡航の是非又はその延期の必要性について改めて検討するようにとの発表がありました。

現在、各国・地域が行っている入国制限措置や行動制限の中には、日本からの渡航者が対象に含まれているものがあり、その範囲は日々拡大される傾向にあります。また、海外から日本への入国に際し、入国制限の対象となっていたり、14日間の隔離の措置を課せられていたりする国・地域も拡大されています。

学生のみなさんにおかれましては、国内での感染拡大防止ならびに、4月からの履修や実習に影響が出るため、**春休み期間中を含めた当面の間、海外渡航はしないでください。**やむを得ない事情がある場合は、必ず事前に下記 URL にある外務省の渡航情報を確認し、「海外渡航届」を大学へ提出してください。**※海外渡航者は渡航先に関わらず帰国後14日間自宅待機となります。**（外務省海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>）

日本国内においても日頃の感染防止対策を徹底してください（適切な場面でのマスク着用を含む咳エチケットや手洗い、アルコール消毒等）。小規模であってもクラスター（集団）を発生させやすい場所への訪問は避けてください。クラスター発生リスクの高い場所は下記の3条件がそろった場所とされています。条件の揃う場所への出入りは、特に自粛してください。

- ① 密閉空間であり換気が悪い
- ② 近距離での会話や発声がある
- ③ 手の届く距離に多くの人がいる

※別紙「クラスター（集団）の発生のリスクを下げるための3つの原則」も参照してください。

以上

<別紙>

【2020年3月9日付 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の見解より抜粋」】

クラスター（集団）の発生リスクを下げるための3つの原則

1. **換気を励行する**：窓のある環境では、可能であれば2方向の窓を同時に開け、換気を励行します。ただ、どの程度の換気が十分であるかの確立したエビデンスはまだ十分ありません。
2. **人の密度を下げる**：人が多く集まる場所には、会場の広さを確保し、お互いの距離を1-2メートル程度あけるなどし、人の密度を減らす。
3. **近距離での会話や発声、高唱を避ける**：周囲の人が近距離で発声するような場を避けてください。やむを得ず近距離での会話が必要な場合には、自分から飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスクを装着するかします。

